

名前：

点数： /18点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 最終回は全部乗せ：二項対立の相対化（A003）＋比喩の翻訳（A001）＋全体を踏まえる（A004）を一つの答案で。部品に番号をふり、書く前に骨格を一行で設計する。ここが書ければ、東大型の記述に正面から立てる。

伝統を守るとは、昔の形をそのまま保存することだと考えられがちである。一方で、時代に合わせて変えていくところが継承だ、という声もある。だが、保存か変化かというこの問いの立て方自体が、伝統をすでに完成した「物」とみなしている。伝統とはむしろ、受け取った者がそのつど問い直し、作り直すことをとおして手渡されてきた「動き」である。伝統は器ではなく、水の流れなのだ。

問1 筆者の考える「伝統」とはどのようなものか。本文で紹介された二つの立場と、傍線部の比喩の内容を明らかにしながら、120字以内で説明せよ。 18点／目標 18分

設計のヒント：部品：①二立場（保存／変化）②共有前提（完成した物とみなす）③再定義（問い直し作り直して手渡される動き）④比喩の翻訳（器＝固定した物、流れ＝動き）。④は③と重ねて回収できる。

問1 模範解答（115字前後）

伝統は、そのまま保存すべきか時代に合わせ変えるべきかという二つの立場が前提とするような完成した物ではなく、受け取った者がそのつど問い直し、作り直すことで手渡されていく動きであり、固定した器ではなく流れとして捉えるべきものである。

要素	採点基準	配点
二立場	保存か変化かという対立に触れている	3点
共有前提	どちらも伝統を完成した物とみなしている点の指摘	5点
再定義	問い直し・作り直しをとおして手渡される動き	6点
比喩翻訳	器＝固定物／流れ＝動き、を説明の中で回収	4点

添削ワンポイント（よくある失点）

この設問の合否線は「共有前提」の5点。二立場を並べただけの答案（3点止まり）と、問いの立て方自体を相対化できた答案の差が、そのまま最難関大の合否の差である。1枚目のNo.001から続けてきた「骨組みを透視する」手順の、これが到達点。

自分の答案が何点か知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のこ
とばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）